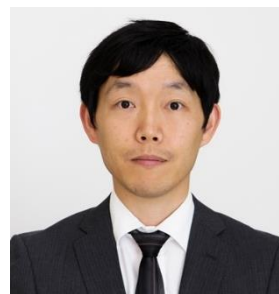


梶谷 彰男さん（鳥取県鳥取市出身）
2018 年度 3 次隊 青年海外協力隊
派遣国：ジャマイカ 職種：行政サービス
2020 年 1 月 26 日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

行政サービス改善に力

「そろそろジャマイカ人の彼女ができたか？」。
今のご時世、日本ならセクハラとたしなめられそうな会話
も、ここジャマイカではご愛嬌。^{あいきょう}「ノッサ(まさか)」と現
地語のパトワ語(公用語は英語)であしらえるようになっ
たのだから、我ながら大したものだ。

カリブ海に浮かぶ島国ジャマイカに来て 1 年がたつ。
冬でも最低気温が 20 度を下回ることなく、年中半袖で
生活している。「世界一美しい夕日」とうたわれるリゾー
トビーチまでは車で 30 分。何度訪れてもその美しさに感
動する。



キャプション：
鳥取県を訪れ地元高校生と交流する
ウエストモアランド県の高生(右列)

私はウエストモアランド県(ウ県)という地方自治体で国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊として活
動している。私は鳥取県職員でもあり、鳥取県とウ県との間で 2016 年に結ばれた姉妹提携に基づく交
流の一環として、JICA の自治体連携制度を活用して派遣されている。

活動は主に、業務効率化や品質向上といった行政サービス改善への協力、日本との交流支援である。交
流については昨年 8 月にウ県の学生たちが鳥取を訪れ、地元高校生との交流やホームステイなどを体験
した。12 月にはウ県で開かれた「レゲエマラソン」に鳥取から代表選手が出場。男子は 4 連覇、女子も
第 3 位に輝き大いに盛り上げた。

自らのコミュニケーション能力の低さを日々痛感しながらも、配属先や協働先に「ノー・プロブレム」
と励まされ支えられ活動している。鳥取県は東京五輪・パラリンピックにおけるジャマイカのホストタ
ウンである。五輪・パラリンピックに向け、そしてその後も未永く両国の良好な関係が続くよう、活動に
まい進していきたい。